第2回 関西支部研修会／CISJ

「インプラント補綴における咬合と全身健康」

丸山剛郎先生（日本咬合臨床研究所所長・大阪大学名誉教授）

「上顎洞底挙上術の基礎からリカバリー処置まで」

加藤仁夫先生（日本大学松戸歯学部口腔インプラント学講座教授）

日時：平成27年6月28日（日）
場所：大阪梅田・ブリーゼプラザ 805会議室

矢田孔太朗（滋賀県）

平成27年6月28日（日）に大阪のブリーゼプラザで第2回関西支部研修会が行われました。

今回は午前と午後の二部構成であり、午前中は日本咬合臨床研究所所長・大阪大学名誉教授　丸山剛郎先生による咬合と全身健康に関する講義、午後は日本大学松戸歯学部口腔インプラント学講座教授・日本大学松戸歯学部附属歯科病院口腔インプラント科科長　加藤仁夫先生による上顎洞挙上術それに伴うトラブル症例、リカバリー症例に関する講義でありました。

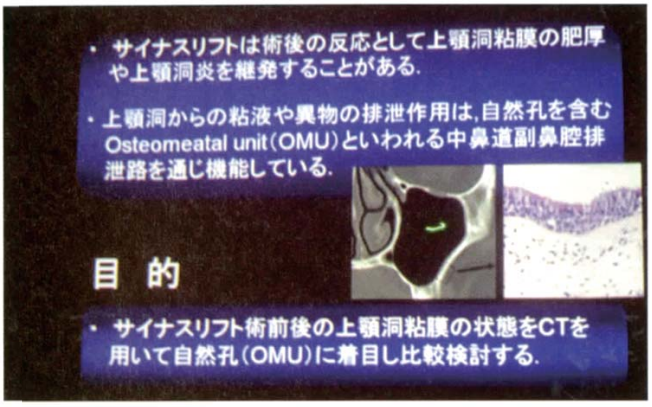
午前中の咬合に関する講義は、従来の咬合に関する理論と丸山咬合理論の違いに関してから始まり、インプラントと天然歯の最大の相違点である歯根膜に関する講義そしてそれに伴う天然歯とインプラントに付与する咬合の違いなどに関して講義をされました。また、いわゆる顎位に関する講義や咀嚼運動の違い、総義歯の食材の違いによる咬頭傾斜角の付与の与え方の違いなど多くの内容で新しいきずきがあり大変実り多い時間を過ごすことができました。

また、数名のかたに前に来ていただき、顎の位置のずれを実際に修正することにより、力の入り方の違いや顎の痛み、筋肉の痛みが和らぐことを実証していきました。そのずれをどうやって診断するかは勉強するしかない、全身をみて診断するとおっしゃっていたのが印象的でした。

午後は、上顎洞挙上術の基礎に関して　ソケットリフトとサイナスリフトの利点欠点、また最近では

ショートインプラントが多くなってきていることなどを多くの論文や病院でのデータなど用いてわかりやすく講義されました。

上顎結節部の骨は女性は閉経するとだんだん脂肪化していくので注意が必要なことや上顎洞を触るときは半月裂孔（自然孔）の確認が必須であることまた、隔壁の存在意味などたいへん興味深い内容でした。

一番興味深かったのは、骨造成に関することで自家骨と代替骨（骨補てん材）の違いは自家骨は約3～4か月で骨に置換し、代替骨はそれの約1.5～2倍の期間がかかるが9か月以降はあまり違いがないという内容でした。

講義が終わって、加藤先生を中心に懇親会がありました。その時に関西支部をひっぱってくれている中野先生と坂根先生が還暦を迎えるということでサプライズで記念品と赤い術衣が贈られました。懇親会は大いに盛り上がりました。